

# 加藤のコラム

第4号（2015年3月）



みなさん、こんにちは。加藤です。

着任してまもなく1年。どうかこうにか平成26年度を終えられそうです。

助けてもらったり大目に見てもらったりすることばかりで、あまり戦力になっていないという反省は常につきまわっていましたが、職場のじゃまにだけはならないように、ただそれだけを心掛けておりました。でも、じゃましていたかもしれません・・・。

所長がだらしないと、その分、スタッフたちは育つものです。このホームページ上でもささやかかもしれませんがいくつかの取り組みをご紹介することができましたし、つい先日も法人内実践発表コンクールというのがありまして、ゆいと東地域のスタッフが3名もエントリーし、みな本選出場を果たして、見事な発表を堂々と行う姿を目にすることができました。年を取ったとは思いたくありませんけれど、ちょっと前までは「自分以外の発表はたいして聞かなくてもいいや」的な、自分でも実にはいやな奴でしたが（今でももちろんいやな奴ですが）、最近は若い人たちが頑張っているのを見るとなんか妙にウルウルしてくるようになってしまいました。



自分のところのスタッフをほめるのは日本人的にはあまり美しくはないのかもしれませんが、彼らのふだんの仕事ぶりを見てみると、自分が彼らと同じくらいの年齢や経験年数の時代には、自分はまったくのへなちょこだったよなあと思い返してしまうのであります（当然のことながら今でもへなちょこです・・・）。ボクは完全に彼らに負けています。

遠くいにしえの時代から、先輩世代は後輩世代に「今どきの若い者は・・・」とか「自分たちの若いときはなあ・・・」とか言ってきたはず。その今どきの若い者と言われた世代もまた、次の世代に同じことを言ってきたのであります。時代はそうやって脈々と受け継がれていくものだと思うのですが、「今どきの若い者はなかなかやる」「自分たちの若いときよりもかなりやる」と感じている自分がいます。一般的に若者世代は頼りなく常識なさげでしっかりしていないという批判を受けがちで、これからの世の中はどうなるんだと先輩諸氏から心配されるものですが、ボクの周りには福祉の世界で働く若者たちを見てみると、あながちそんなこともないぞと思うのです。

福祉に人が集まらない時代だと言われます。でも、少なくともボクの周りには人たちはみんなけっこういい奴なので、福祉を目指したいと思っている人は、ぜひはるにれの里で働いてみませんか。すみません、求人広告みたいになっちゃいました。

文責：加藤 潔